

「脳卒中」と呼ばれる病気には、脳の血管が詰まる脳梗塞、脳の血管が破れて出血する脳出血やくも膜下出血があります。脳卒中は心疾患、がん、肺炎とともに日本人の主要な死因の一つです。寝たきりになる原因の3割が、脳卒中などの脳血管疾患です。

◇23

# 知りたい！ 治療の最前線

## 脳卒中

### 一口メモ

緊急性の高い脳卒中治療については、高度で先進的な治療を行う医療機関のセンター化および地域の病院との連携強化が重要になる。全国調査によると、包括的脳卒中センターとしての機能が高い病院では、脳卒中の死亡率が26%低下することが明らかとなっている。

# 24時間365日 即応



秋岡 直樹  
富山大附属病院  
包括的脳卒中センター  
脳神経外科講師

富山県を含めて全国的に高齢化が進む中、脳卒中の予防や診療体制の整備は、これまで以上に注力すべき時代を迎えています。今月1日には、いわゆる「脳卒中・循環器病対策基本法」が施行され、脳卒中に対する全国的な取り組みが求められています。

こうした事情を背景に、富山県における脳卒中医療を、山県における脳卒中医療を、はるかに向上させるため、富山大

す。具体的には、急性期脳梗塞に対するtPA静注療法（血栓溶解療法）および脳血栓回収療法、カテーテル治療を24時間体制で迅速に対応しています。さらには難易度の高い脳動脈バypass術や、くも膜下出血の急性期治療としての脳動脈瘤頸部クリッピング術、コイル塞栓術、脳出血に対する開頭血腫除去術、内視鏡的血腫除去術などを行っています。

救急受け入れ体制として、ドクターヘリでは県内全域をカバーし、さらに隣県の

### 隣県から受け入れ

救急受け入れ体制として、ドクターヘリでは県内全域をカバーし、さらに隣県の

# 手術件数が急増



岐阜県飛騨地区、新潟県糸魚川地区からも受け入れていきます。脳卒中病床を増床し、看護体制を整え、緊急手術が必要な症例、重症の症例は救急治療室にて周術期管理を行い、発症後早期から積極的にリハビリテーションに取り組んでいます。また地域の病院との医療連携協定を締結し、回復期リハビリ病棟や療養病棟などへと、シームレスにつながるようにしています。

18年度（18年4月～19年3月）の救急症例受け入れ数は、376件（脳神経外科266

富山大附属病院包括的脳卒中センターの頸動脈手術（左）とカテーテル治療（右）の様子

### 6割が歩行可能に

年間手術件数は15年から17年の平均が312件であったところ、18年は442件に急増しました。このうち急性期脳梗塞に対する血栓回収療法は2件から17件に増え、入院から閉塞した脳血管を再開通させるまでに要した時間は平均97分と、全国平均に比べて短時間で対応できました。

いずれも重症の脳梗塞であったにも関わらず、約6割の方が1カ月後には歩行可能となるまでに回復しました。今後同様の体制を維持し、スタッフ一同、脳卒中医療に邁進していきます。

次回は17日に掲載します。